

授業科目 総合演習

【担当教員名】 相馬 俊雄		対象学年	4	対象学科	理学
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	60
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解		思考・判断		関心・意欲	
◎		◎		◎	
				態度	
				○	
				技能・表現	
				○	
【概要・一般目標：GIO】					
理学療法の知識に関する修得の到達度を確認する。そして、理学療法士国家試験に合格するために重点分野・苦手分野に対して補講や集中講義を実施して、理学療法士として必要な知識を修得する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構造と機能および心身の発達について説明する。 2. 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進について説明する。 3. 保健医療福祉とリハビリテーションの理念について説明する。 4. 基礎理学療法学の知識を説明する。 5. 理学療法評価学の知識と技能を関連付ける。 6. 理学療法治療学の知識と技能を関連付ける。 7. 地域理学療法学の知識を説明する。 8. 臨床で理学療法士が遭遇する事態を想定し、それを理解する知識や対処方法について説明する。 					
回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員		
1・2	オリエンテーション	8	講義：授業内容、授業評価の説明、基礎知識確認テスト		
3・4	人体の構造と機能1	1	講義：解剖学（筋・関節・骨・靭帯などの筋骨格系）		
5・6	人体の構造と機能2	1	講義：解剖学（一般臓器など）		
7・8	人体の構造と機能3	1	講義：病理学		
9・10	人体の構造と機能4	1	講義：生理学（細胞、中枢・末梢神経、内分泌など）		
11・12	人体の構造と機能5	1	講義：生理学（呼吸、循環、代謝、消化、排泄など）		
13・14	疾病と障害の成り立ち1	2	講義：リハビリテーション医学		
15・16	疾病と障害の成り立ち2	2	講義：内科学、神経内科学、整形外科学など		
17・18	基礎理学療法学1	4	講義：基礎運動学		
19・20	基礎理学療法学2	4	講義：臨床運動学		
21・22	理学療法評価学	5	講義：検査測定評価学（関節可動域、筋力測定、神経学的検査など）		
23・24	理学療法治療学	6	講義：中枢神経系疾患、整形外科疾患、神経筋疾患、呼吸循環器疾患に対する治療学		
25・26	地域理学療法学	7	講義：介護保険、保健福祉施設でのリハビリテーション		
27・28	保健医療福祉とリハビリテーション	3	講義：介護保険、保健福祉施設でのリハビリテーション		
29・30	まとめ	1-8	到達度確認テスト		
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		国試の達人 理学療法編 2015	理学療法科学会	アイベック	2014年7月以降
		国試の達人 臨床医学編 2015	理学療法科学会	アイベック	2014年7月以降
		国試の達人 運動解剖生理学編 2015	理学療法科学会	アイベック	2014年7月以降
参考書					
その他の資料					
【評価方法】		【履修上の留意点】			
定期試験および実施されるすべての模試試験の成績を含む		各自で修得の到達度と苦手分野・重点分野を自覚し、早期から自分の目標を立てて計画的に学習し、学力の向上を目指すこと。			